

# 議 事 録

		作成年月日	
		令和2年11月12日	
日時	令和2年11月9日 15時から17時	作成	承認
場所	あわら市役所 正庁	渡邊	
出席者 (敬称略)	別添資料参照(第2回あわら市道の駅基本計画策定委員会名簿)	欠席: 山田重喜氏、末富攻氏、杉田光良氏、酒井敏雄氏	
会議の趣旨	第2回道の駅基本計画策定委員会次第 参照		
資料	別添		
議事内容			
<p><b>【1. 川本委員長あいさつ】</b>            第1回では、構想についてご承認いただいた。今回は、具体的な道の駅の計画についてご議論よろしくお願ひしたい。また私も先日10/27に吉崎地区を訪問し、末富様にご案内いただいた。個人的なイメージが掴むことができた。ぜひ皆様には、忌憚のないご意見を頂戴したい。</p> <p><b>【2. 報告事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 道の駅「蓮如の里あわら」整備構想について(事務局説明)              資料: 道の駅「蓮如の里あわら」整備構想および整備構想概要版 参照              ※資料に沿って報告              [報告概要]             <ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅名内(仮称)の文字を、名前の確定に伴い削除。</li> <li>・整備構想概要版内3P、4道の駅導入機能及び施設等 休憩機能(1)駐車場 表内に(予定)の文字を追加。</li> <li>・10/14に開催された全員協議会にて、整備構想(確定版)の説明を行った。</li> </ul>             [質疑応答]             <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問事項なし。</li> <li>・内容について全員承認</li> </ul> </li> </ul> <p><b>【3. 協議事項】</b></p> <p><b>I. 道の駅導入機能及び施設等について</b></p> <p><b>① 駐車場について</b>            資料1(第1駐車場レイアウト(案)1-①、2-①、第2駐車場レイアウト(案)1-②、2-②)に沿って説明。</p> <p>[質疑応答]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福井県土木部 道路保全課長 平林氏:              駐車場レイアウトの案①と案②の違い、それぞれのレイアウトの狙いは何か。説明いただきたい。</li> <li>A. あわら市土木部 伊藤理事:              案①と案②の第1駐車場の違いは、施設前に広場を設けているかどうか。それに付随して、第2駐車場の駐車台数等が変更されている。案①の狙いは、車両台数をなるべく確保すること。案②の狙いは、歩行者の利用空間を広くすること。広場を設けることで、レイアウトの自由度があることもメリット。</li> <li>補足. あわら市政策広報課 江川課長:              案②を作成いたる経緯として、案①において、広い軒下を設け、その下で机等を置き、飲食をしてもらうことを想定していた。しかし施設のギリギリまで駐車スペースがあるため、利</li> </ul>			

用者に排気ガスなどの影響が懸念された。また、案①の施設の敷地面積では、建蔽率の兼ね合いから施設面積を広くできない。そこで施設前に広場を設け、敷地面積に含めることで施設の面積を広げられる案②を作成した。

(コメント)

・福井県土木部 道路保全課長 平林氏：

案②が施設のレイアウトの観点から良いということが分かった。最近、県内道の駅から、お客様が当初の想定より多く来場され、駐車スペースが足りないという事態が起きている。そこで、駐車場の将来の拡張性なども必要となる可能性があるため、そのことも念頭に置くとよい。

・福井河川国道事務所長 宮本氏：

資料1のレイアウト(案)の第一駐車場の南東と南西に接続する市道について、いずれも常時、一般車両が出入りできるという想定なのか。

A. あわら市土木部 伊藤理事：

基本的にその通り。この市道の利用は、1日に数台程度なので、駐車場の構内を通行してもらうことを想定している。

→福井河川国道事務所長 宮本氏：

地域の住民は良いが、道の駅の利用客が市道を抜けて出入りしてしまうのは好ましくないのではないか。

A. あわら市土木部 伊藤理事：

案内標識などで対応していきたい。

→福井河川国道事務所長 宮本氏：

この市道の利用の仕方は、今後の関係機関との協議では議論になると思われるので、熟考されたい。

・あわら市観光協会会長 前田氏：

案②ならば、トイレ利用だけのために止めるということがなくなってよいかも。また北潟湖のサイクリングロード利用者の駐輪場の整備も考えたほうがよいと思う。

A. あわら市政策広報課 江川課長：

サイクリングロードとの連携は念頭に置いており、後程の施設整備でも説明するが、施設に隣接する形での駐輪場の整備を考えている。

・北潟地区区長会会長 古橋氏：

既存施設(吉崎観光センター)は使用しないのか。

A. あわら市政策広報課 江川課長：

資料3でも説明させて頂くが、事務局としては、既存施設は老朽化や間取りの制約などの関係から、既存施設をリノベーションするのではなく、新築する必要があると考えている。

・あわら市議員 吉田氏：

なぜ案①、②でEV車の充電スペースが変わっているのか。また充電スペース1台では少ないのではないか。

A. あわら市土木部 伊藤理事：

EV車充電スペースは、通常の駐車スペースより広い面積が必要になるので、基本的に駐車場の端に設定している。変更は可能。案②では、駐車場内レイアウトが変わった関係で、国道側に持ってきている。

A. あわら市政策広報課 江川課長：

全国の例をみると、充電施設はランニングコストが高く、30万円/月程度の支出に対し、

10万円/月程度の収入しかなく、赤字運営している。2台、3台と増やすと、赤字が増えることになるため、施設規模や利用者数との兼ね合いを考えて検討したい。

→あわら市議員 吉田氏：

費用が掛かるのは理解したが、今後EV車の需要は伸びていくと予想されているので、より多くの充電スペースが必要になるのでは。道の駅ではきっちり設置してほしい。

A. あわら市政策広報課 江川課長：

EV車充電スペースに関して、今後県内の道の駅の視察を行う予定なので、各道の駅の状況を聞いて、検討を進めたい。

・福井大学 川本教授：

駐車場のレイアウトから計画するのは問題ないが、施設の場所を決め打ちしてしまうのは好ましくない。施設の魅力や景観から考えるなど、多方面の視点から計画していくべきでは。駐車場の場所を決めてしまうと変更は容易でない。熟考する必要がある。

A. あわら市長 佐々木氏：

決め打ちというわけではないが、既存の観光センターの土地に高低差があるという観点から、駐車場には適していないと思われる。

## ② 吉崎観光センターの利用について

資料2に沿って説明。

補足. あわら市政策広報課 江川課長：

既存施設（吉崎観光センター）の土地の1000㎡に加え、施設南側にある私有地の一部を借りるもしくは購入することを考えており、それらに加え、施設南東側の国道沿いにあるあわら市の市有地とあわせて、1500㎡を施設の予定地として考えている。

また、先程の駐車場の説明の中で、案2では敷地面積を増やすとしていたが、それを面積に加えると、1700㎡程となる。

[質疑応答]

- ・質問事項なし
- ・内容について全員承認

## ③ 休憩機能・情報提供機能・地域振興機能・周遊観光促進機能施設レイアウト

資料3に沿って説明。

今回頂いた意見をもとにレイアウト案に反映し、次回提示予定。また施設面積を900→1020m<sup>2</sup>に拡張したレイアウトも作成して提示する。

[質疑応答]

・北潟漁業協同組合組合長 田端氏：

トイレの設置位置について、まず、トイレがあり、その奥に地域振興施設があるため、施設に入りたくないと思われるかもしれない。トイレのみの利用者が増えると思われるので、トイレを奥に設置することはできないのか。

A. あわら市政策広報課 江川課長：

トイレの位置については、道路管理者との協議が必要になるので、今後協議していきたい。

→福井県土木部 道路保全課長 平林氏：

道路管理者の観点からコメントさせて頂くと、トイレの設置は、施設との一体型と単独型の2種類がある。トイレのみの利用者が多いことから、道路情報発信コーナーについては、トイ

レまでの動線に設置するようにお願いしている。

・福井県土木部 道路保全課長 平林氏：

案①は道路情報発信コーナーを見てもらえるような配置になっていると思う。しかし、案②のレイアウトは、利用客が施設の外からしかトイレに行けないように思える。レイアウト案中に人の動線が分かるようにしてほしい。

また、飲食施設が農産物直売所と観光案内施設の間にあるが、これだと人が往来する中で食事をとることになって、利用に抵抗を覚えるのではと考える。人の動線についてどのように考えているか教えて頂きたい。

A. あわら市政策広報課 江川課長：

ご指摘のとおり、案②ではトイレ利用は外からの利用となる。いずれの場合もトイレ・休憩スペース・道路情報発信コーナーは24時間利用としているので、それ以外の施設は、時間外は閉めることになる。

また、施設内の人の動線については、検討中であるが、外にひさしを付けて軒下利用空間とする予定なのでそちらを活用して動線を確保したいと考えているが、冬季期間等の動線などどうするかは今後検討していく。

補足. あわら市長 佐々木氏：

今回、時間の関係で仮レイアウトとなっており、記載の十分でないところがある。今回お気づき頂いた点を反映し、レイアウトしていく。

・三国土木事務所長 神門氏：

レイアウト案①、②についてだが、所属の建築部門に確認したところ、現在の吉崎観光センターの立地は市道と国道に接続する角地に当たる場所なので、角地緩和が適用される可能性が高い。その場合、建蔽率は60→70%に引き上げられるので、参考にされたい。

A. あわら市土木部 伊藤理事：

角地緩和について、詳細をお聞きしに伺わせていただきたいと思いますので、よろしく願いしたい。

・福井県土木部 道路保全課長 平林氏：

レイアウト案②では、利用者は多機能トイレにはどのようにアクセスするのか。道路情報発信コーナー→休憩スペース→多機能トイレと移動しなくてはならないのか。

A. あわら市政策広報課 江川課長：

ご指摘の通り、道路情報発信コーナー・休憩スペースを経由する。アドバイスを受けて修正したい。

→福井県土木部 道路保全課長 平林氏：

例えば、案①のレイアウトのトイレの後側には、4mの空きスペースがあり、その部分まで配置を下げるといった案①と②の合わせたようなレイアウトも考えられると思う。

A. あわら市政策広報課 江川課長：

建物の面積に縛られた部分もあった。ご指摘いただいたところを参考にしてレイアウトを考えたい。

・福井大学 川本教授：

やはり、駐車場内を経由して市道-国道がアクセスするのは気になる点である。市道をそのまま国道に繋げるにしても、現状の市道の幅員が広すぎると思うので、車が蛇行してゆっくり走れるようなコミュニティ道路のような市道にする方法もなくはない。駐車場と施設の間に道路を挟むのはどうかとも思うが、地域の人々の利用などを含めて、総合的に考えた上で、よりよい方法を考えてほしい。

・きららの丘担当課長 深町氏：

生産者や業者の搬入スペース、ごみの集積所、自動販売機などの施設外に必要となるスペースはどうなっているのか。業者が搬入したら出られなくなる、レンタサイクルと事故をするなどのリスクをどのように回避するのかを考えてレイアウトしてほしい。また、バックヤードに保管スペースが見受けられない。業者が困るのでは。

A. あわら市政策広報課 江川課長：

ご指摘の通り。場合によっては、県内の道の駅やきららの丘などを視察させていただき、レイアウトを考えたい。

→きららの丘担当課長 深町氏：

従業員のトイレもどうするか考えておいてほしい。

・福井県土木部 道路保全課長 平林氏：

自転車利用者からすれば、シャワー室やトイレの近い案②が良いレイアウトと思う。レンタサイクルの保管場所がないので考えたほうがよい。

・福井大学 川本教授：

高低差をうまく利用するなどレイアウトについてはよく考えてほしいが、1番は利用者が利用しやすい施設、レイアウトであることが大切。その点を考えて提案を作成いただきたい。また平面図だけだとイメージが難しいので、立面図も併せて提示いただきたい。

A. あわら市政策広報課 江川課長：

もちろん立面図などがあると良いのは承知している。しかし今回の基本計画策定の予算では、詳細測量のデータや立面図などまで作成できない。来年度、基本設計の段階で詳細なデータを提示できるようになると思うので、ご理解をお願いしたい。

・あわら市議員 吉田氏：

トイレのスペースは、道路側に設置しなければならないルールがあるのか。

A. あわら市長 佐々木氏：

ルールはない。ただし、24時間利用のスペースと道路管理者が管理するスペースがあるということで分けている。高低差の関係で低い側（道路側）に下水設備があるのが一般的と考えて、とりあえずということで道路側に設置している。

・福井県農林水産部 流通販売課長 吉澤氏：

農産物直売所の面積について、どのような商品を置くのかを考えて売り場面積を決めた方がよい。売り場面積を先に決定して、それに囚われてはいけない。

A. あわら市政策広報課 江川課長：

直売所は小浜市の道の駅を参考に設定した。アドバイスを参考にさせていただく。

## II. ゾーニング計画について

資料4に沿って説明。今回のゾーニング計画案では、資料3のレイアウト案①に基づいて作成している。駐車場配置が決定次第、修正し提示させて頂く。

[質疑応答]

・あわら市創造戦略部長 小嶋氏：

今現在、国道305号から七不思議堂への入り口が閉め切られているが、将来的にオープンにする予定はあるのか。

A. 本願寺文化興隆財団 田井野氏：

(蓮如上人記念館の概要説明)

鳳凰閣については、現在カフェと土産物販売を行っているが、機能強化施設の目玉としたいと考えている。この施設には東京からの資本を呼び込み、カフェレストランとする計画である。

七不思議堂については、利用客の動線および北潟湖の散策の観点から機能的ではないと考えている。また七不思議堂は古民家であることから、電気、暖房、厨房などの設備はなく、これらを改修しようとするれば、2000万円ほどの費用がかかってくる。そこまでの初期投資をかけた上で、例えばレストランや宿泊施設などをやってくれる企業があるかどうかは疑問である。そこで、この施設は移築元である富山県にお返しするという案も検討している。そうなるとこの場所が空くことになるので、動線としても機能的に使用できると考えている。

自然館には地域の地学や自然などの展示物などを展示しているが、内装外装ともに老朽化しており、現在は一般公開を行っていない。これらの活用については、市と協議中であるが、展示物などは地元の宝でもあるので、地域の子供たちの学習施設として利用していきたいと考えており、将来的には施設の改修などを考えている。

→福井県土木部 道路保全課長 平林氏：

記念館のレストランでは素晴らしい景色を見ながら食事ができることからよいと思う。

鳳凰閣と地域振興施設が一体的に運営を行っていくうえで、それぞれの施設が何を売るかなどの調整ができればよいと思うが、そのあたりどのように考えているのか。

A. あわら市長 佐々木氏：

地域振興施設と鳳凰閣で取り扱う産品が被らないように調整している。道の駅では、おろしそばやソースカツ丼などの、いわゆる福井県のソウルフードなどといった軽食中心で、軽く腹ごしらえできる程度のものにしようと考えている。鳳凰閣の方は、夜も営業しながら、いろいろな人が楽しめるような施設の運営を考えているので、その辺はうまく調整していきたい。

補足. 本願寺文化興隆財団 田井野氏：

現段階での検討状況をお話すると、鳳凰閣と地域振興施設は差別化を考えている。軽食を中心とした立ち寄りのイートインは地域振興施設を、鳳凰閣の方は夜の営業も考えており、客単価も5000〜7、8000円程度のハイクラスな形での営業を想定している。現在、首都圏において、フランスで話題になっている日本料理を提供している店があり、そちらの方から首都圏以外でも出店したいという話もいただいているので、目的地となる道の駅となるように、そういった店も誘致できたらと考えている。この道の駅の目玉の一つとして、呼び込みのできる、また話題性を持った施設として整備したい。

全国の道の駅を見てきたが、このような素晴らしいロケーションを持った道の駅は、全国でも少ないと思う。地域の人にとっては当たり前の風景であると思われるが、私のような県外から来た者にとっては、こういったロケーションを持つ施設はほとんどない。この地域の持つロケーションや観光資源の素晴らしさに再注目して、新幹線の開駅に向け、近畿や中京、首都圏からの観光客を呼べるような施設の整備を検討していきたい。

湖岸については、現在、市とも協議中であるが、散策路の整備や湖畔沿いのオープンエア型の飲食施設なども検討している。

蓮如館については、漫画家の永井豪が描いた蓮如さんかるたがあるので、そういったものを活用し

ながら、施設の拡充、活性化を考えている。

・福井県交流文化部副部長 獅子原氏：

蓮如館などの歴史を感じられる施設があることを鑑みて、インバウンドを見据えていく必要があると考える。そのあたりの戦略は検討しているか。

A. あわら市政策広報課 江川課長：

具体的な計画等は検討していないが、当然インバウンドは見据えていく必要があると考えている。

### III. その他

(全体を通して)

[質疑応答]

・あわら市商工会会長 赤尾氏：

トイレの24時間利用にあたり、防犯カメラの設置をお願いしたい。また駐車場について、高齢者のアクセルとブレーキの踏み間違いによる交通事故を防止するため、ガードレール・車止めなどを考えていただきたい。特に、餐坊食堂側には、現在そういったものがないので、取り付けをお願いしたい。

A. あわら市政策広報課 江川課長：

車止めについては設置を考えている。駐車場のレイアウトが確定した時点で詳細は詰めていきたい。

補足. あわら市長 佐々木氏：

近隣施設より交通安全対策についてはお願いされているので、対応は検討している。

### 【コメント】

・坂井北部丘陵地営農推進協議会 事務局長 中林氏：

農産物直売所の搬入路の確保や利用者が安全に駐車場の車まで移動できるように考えてほしい。また北潟湖畔公園などの近隣の観光施設などと連携し、周遊観光などができるよう検討しながら、交流人口を増やすように考えてほしい。

・あわら市長 佐々木氏：

農産物直売所について、広めに設けている。また新規就農者によるチャレンジショップなどを設けるなど、ここにしかできないものを設けたい。農産物を売るだけでなく、生産者の顔が見える形にできたらと考えている。JAや営農推進協議会の皆様からは、そのような観点からもご意見も賜りたい。事前に相談させて頂くこともあるかと思うが、よろしくをお願いしたい。

・福井大学 川本教授：

人の動線のイメージがつかめるように、考え方などを示したものを用意頂けるようお願いしたい。

### 【4. その他】

[事務局より]

(今後のスケジュールについて)

・別添スケジュールのとおり

・第3回：12/4（金）10:00～

(次回の予定している提案について)

・今回の意見を参考にレイアウト等を作成し、提示させて頂く。

・空間・意匠設計等に関して次回提示させて頂く。

・管理運営に関しては、県内道の駅を視察し、案を提示させて頂きたい。

**【副委員長挨拶】**

前回の構想から、具体的な道の駅の姿を議論いただいた。事務局も手探りでのプランニングとなっている。レイアウトなど、皆様のご意見を反映し、提案していく。ただし設計図となるわけではないので、議論を行いながら、案を練っていきたい。次回もよろしくお願ひしたい。

以上